

次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol.316

■ 次世代モビリティ対応技術動向講演会

次世代自動車センター浜松では、今年度新たな支援施策として「次世代モビリティ対応支援事業」をスタートさせ、次世代モビリティと言われる小型電動モビリティである“エアモビリティ”や“ワークモビリティ”に関する支援を展開しています。

今回、その一環として、「次世代モビリティ対応技術動向講演会」を開催しました。講演会では、ヤマハ発動機株式会社 様、株式会社クボタ 様、株式会社ソミックトランスフォーメーション 様から講師をお迎えし、ワークモビリティの最新技術情報や事業展開に関する情報を紹介しました。

また、会場では、ワークモビリティ製品を展示するとともに、講演会終了後、講師の方々と参加企業の皆様の意見交換の場として、技術交流会を開催しました。

■ 日 時 : 2025年10月7日(火) (講演会) 13時30分～17時
(技術交流会) 17時15分～18時30分

■ 会 場 : グランドホテル浜松

■ 参加者 : (講演会) 84社／154名 (技術交流会) 33社／60名

【講演会】

次 第	内 容
主催者挨拶	次世代自動車センター浜松 センター長 望月 英二
来賓挨拶	静岡県経済産業部 部長 齊藤 卓己 様
講演	ヤマハ発動機(株) 技術・研究本部 新エネルギー領域担当 アドバイザー 稲波 純一 様 演題:「ワークモビリティの開発動向」
	(株)クボタ 技術開発推進部 理事 越智 竜児 様 演題:「クボタのスマート農業の現状と将来展望」
	(株)ソミックトランスフォーメーション SUPPOT 事業戦略責任者 井島 剛志 様 SUPPOTBizDev 室 室長 新村 康二 氏 様 演題:「ワークモビリティによる新価値創造の紹介」

<開会>



<来賓挨拶>



<講演①：ヤマハ発動機(株) 様>



(質疑応答)



<講演②：(株)クボタ 様>



(質疑応答)



<講演③：(株)ソミックトランスフォーメーション 様>

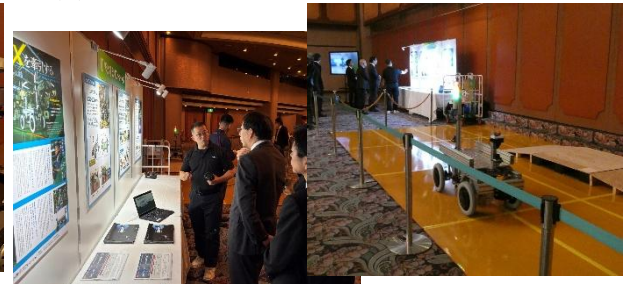


【ワークモビリティ製品の展示】

<(株)eve autonomy 様>



<(株)ソミックトランスフォーメーション 様>



【技術交流会】<主催者挨拶>



<来賓挨拶：浜松市 木下次長 様>



【参加者の声】

○講演①

- ・ゴルフカートでのご経験をベースにして、他社との協業も積極的に有効に活かしながら、自律運転まで実現されている点が参考となった。また、作業系との組み合わせにより、ワークモビリティの活用の将来性の広がりがあるという考え方も参考になった。
- ・自動運転（自律走行）に関して、開発に対する課題が理解しやすく参考になった。
- ・自律走行について現状のレベル状況、今後の課題や対策内容が聞けて参考になった。
- ・車両間の通信・連携について、具体的な例を踏まえて説明いただけたため、今後の自動運転、IoT 技術の方向性の参考になった。
- ・ワークモビリティの目的の一つ 24 時間稼働からバッテリーの交換方式が有効となることを再認識した。
- ・各センサー類の役割やメリット、デメリットについて詳しく理解することができた。
- ・複数センサーやカメラの冗長性で信頼性を確保しつつ、コストダウンのため減らす傾向という点が参考になった。
- ・ワークモビリティを人の代わりに作業する構成として説明いただき、非常にわかりやすかった。フィールドでの協調として ODD(注)が重要であることも理解した。

注) 自動運転システムが作動することを前提とした走行環境条件の範囲であり、合理的に予見される防止可能な人身事故が生じないことが求められる領域

- ・安全を確保しつつ法整備も含めながら開発されているのが理解できた。

○講演②

- ・水稻中心にスマート農業への取組みと展望を伺うことができた。特に現在でも KSAS(クボタスマートアグリシステム)の多様なデータ取得の取組みが参考になった。
- ・農業の課題とそれに対する農業機械の開発、取組みが参考になった。中山間地域に適して KATR(不整地向け小型プラットフォームロボット)、スモール農業という取組みなど、知らなかったことがあり勉強になった。
- ・担い手が少なくなってきた中で少数でも可能な農業や管理方法が進んでいることや、農業が抱える課題を解決し魅力的なビジネスになるよう進んでいることがわかった。
- ・無人運転化にしていくために法整備含め連携を図り取り組まれていて感心して拝聴した。KATR については、今後の普及含め非常に将来性の高いロボットであると感じた。
- ・農機に対する知見がなかったため、現状、農機の自動運転化がここまで進んでいることがわかり参考となった。
- ・先進的な自動運転技術を映像で多数お見せいただき、非常にイメージが湧きやすかった。
- ・中山間部における自動小型ロボのニーズがあることを学べた。悪路を走れ、荷物を落とさない制御の重要性が求められていて、農業の重労働から解放されるのではと思った。
- ・KATR の水平を保つ技術がすごいと思った。農業に対する自動化は必要であると思うが、設備の高額化につながるのではないかと思った。
- ・果樹、中山間地向けには農作業従事者不足や高齢化、地形に対応したモビリティの開発など、まだまだ課題は多く、その課題解決に今後の取り組みの可能性を感じた。

○講演③

- ・SUPPOT の実機のデモ（自動追従など）を見せてもらってとても良かった。汎用性、対応条件が幅広く、良く考えられている。
- ・自社の課題から培った足回りの技術で新たな事業展開をしている姿勢に共感した。
- ・SUPPOT の汎用性、走破性に驚かされた。課題である若者減少に対して、SUPPOT 導入により省人化実現につながるものだと感じた。
- ・SUPPOT による労働生産性向上や IT システムとの連携により DX へ向かっていくということで将来性を感じた。
- ・ロボットは人を削減するものではなく、生産性向上につながるロボットであることが参考になった。人を追従する点、配送、積み込みとの連携もとても良いと感じた。
- ・導入事例を見させていただいたことで、ロボットの導入と言いながらも SUPPOT が非常に手軽に日常業務のサポートとして即戦力になる姿が浮んだ。現在着目されているロボットの分野について将来性のある分野だと思った。
- ・完全な自動化、スマートファクトリー化は、なかなかハードルが高いが、今回講演頂いたような協働ロボットなら、弊社でも取入れやすいと感じた。